

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年9月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、9月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（9月分）

## 東予地方局地域農業育成室

### ■農福連携でサトイモ収穫の可能性を検討

- 地域農業育成室は9月26日、周桑広域営農団地推進協議会担い手部会と協賛で、西条市の農事組合法人吉田の農場で農福連携セミナー（現地研修）を開催し、農家、福祉施設、関係機関の30人が参加。
- 現地ほ場のサトイモを掘り起こした後、分割作業（ミニハンマーや突起物のある道具を使用）や作業倉庫への運搬、選別作業等（包丁の使用や毛を除く）を見学。
- 福祉施設関係者から、「施設利用者がどの作業がやれるか検討したい」との申し出があり、参加者からは、「作業体系を細分化し、障がい者の受け入れに対応した新しい作業体系を検討する必要がある」との意見が出たことから、受け入れ可能な作業内容を福祉関係者らと相談しながら、マッチングを行っていく。



分割作業を確認する福祉関係者

### ■太天の雨よけ等による汚損果軽減実証を開始

- 地域農業育成室は、太天平棚栽培技術確立実証（局予算）で、収穫前に果実が濡れることが原因で発生する汚損果軽減を目的に、雨よけ栽培等の実証を開始。
- 9月25～26日に、雨よけ・袋掛け・無袋の3区を設け、雨よけは列単位で5樹被覆、袋掛けは果実単位で60果被覆。
- 10月末頃に収穫し、雨よけの有効性を確認するとともに、結果について報告会で生産者に説明し、太天平棚栽培技術として、マニュアルの作成に活かす予定。



雨よけ栽培（樹上をビニール被覆）

## 四国中央農業指導班

### ■早急な対策が必要！！～鳥獣害対策研修会で効果的なサル対策を学ぶ～

- 四国中央市では、近年サルによる農作物などへの被害が拡大しており、昨年県が実施した生息状況調査では、10の群れが存在し、県内で最も加害レベルの高い群れがいると推定。
- そこで、農業指導班は9月10日、JA うま総合経済センター等において「鳥獣害対策研修会」（サル対策）を開催し、（株）野生鳥獣対策連携センター阿部豪氏を講師に、被害を受けている集落の環境点検と「サルの生態と効果的な対策」についての講演を実施。
- 環境点検では、被害状況の聞き取りや害獣の痕跡の確認、航空写真で地形を確認しながら効果的な罠の設置場所と方法等について、講演では、サル対策の基本的な考え方や効果的な捕獲方法、集落で取り組むことの重要性についてアドバイスを受けた。
- 今後は、指導班がサル対策について支援する市内モデル集落での対策事例を周知するなど、被害が拡大する集落へ効果的な対策指導を行う。



航空写真で地形を見ながら現場確認

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■「紅い雫」の栽培面積が増加

- 東予地域のいちごの定植が8月30日から開始。
- 今年度は、県単事業を活用して新たに4戸27.3aで「紅い雫」の栽培が開始され、管内の栽培面積は117a（昨年比126%）となる見込み。
- 産地戦略推進室は、西条市において実証園地を設置し、炭酸ガス施用による収量増・高品質化を図り、「紅い雫」の普及を推進する。



県単事業整備ほ場（新規）

### ■花木苗を安定供給するため挿し木講習会を開催

- 産地戦略推進室は9月25日、農林水産研究所花き研究指導室で花木挿し木講習会を開催。
- 花木（ピットスポラム、ビブルナム・ティナス、メラレウカ）の母樹園を設置しているJA越智今治、JA周桑農協、JAうま管内の育苗農家及び関係者11人が参加し、農林水産研究所花き研究指導室から講習を受け、挿し穂の調整や用土に挿す作業等を行った。
- 産地戦略推進室では、育苗農家の挿し木技術の向上を図るとともに管内農協の連携を深め、花木苗が早期に供給できる体制を構築する。



挿し穂作りを学ぶ育苗農家

### ■フラワーアレンジメント講習会で新花材ピットスポラムなど大好評

- 産地戦略推進室は9月8日、農林水産研究所花き研究指導室で開催された日本フラワーデザイナー協会愛媛県支部のフラワーアレンジメント講習会（参加者：51人）において、東予の花木の展示や紹介、花材として推進。
- この時期、出荷適期を迎えた花木（ピットスポラム、ビブルナム・ティナス、メラレウカ）をフラワーアレンジメントの花材として講師や参加者に使用してもらい、感想や意見等を把握するためにアンケート調査を実施。
- アンケート調査では、対象の花木を知らない約20%、今後使ってみたい100%、栽培圃場を見学したい97%、花木を買うポイントは予算や季節感を重視といった結果が得られた。
- 同室は、アンケートの結果を踏まえて新たなPR活動に取り組む。



作品を作る参加者

## 今治支局地域農業育成室

### ■今治の青年農業者が自分の販路について考える。

- 地域農業育成室は9月2日、流通販売に関するスキルアップ講座を開催し、今治市青年農業者協議会員7人が出席した。



- 愛媛サポーターズ的那須朗義氏を講師に、出席者の農産物の生産状況を踏まえ、首都圏でどのようなところで販売していきたいのか、消費者の動向など、自らの販売事例や取引先に求めるものの事例を挙げ、参加者と意見交換しながら説明を受けた。
- 今後、同協議会では、那須氏のアドバイスを受けながら、首都圏での試験的販売を実践していくことから、地域農業育成室では、同協議会の情報発信を支援する。



スキルアップ講座の様子

### ■農福連携 農業ジョブコーチの育成研修会開催

- 地域農業育成室は9月26日、農業生産法人(株)ファーム咲創(倉庫・圃場)において、市内4か所の福祉事業所スタッフを対象に、農福連携農業ジョブコーチ育成研修会を開催。
- 農業機械の講習として、草刈機についてはJA農機センターが基本的な操作と安全使用、メンテナンスについて説明。里芋の収穫・調整作業は、ファーム咲創から作業工程の説明を受け、実際に調整作業を行った。
- この後、関係者で意見交換を行った結果、10月には福祉事業所利用者による里芋の調整作業の体験を実施することになった。



収穫作業を見学する福祉事業所

## しまなみ農業指導班

### ■しまなみ産柑橘の高品質果安定生産に向けて

- しまなみ農業指導班は8月30日、今治市大三島町において、しまなみ柑橘研究会第1回研修会を開催し、生産者等60人が出席。
- 当日は、現場の柑橘栽培農家の課題である甘平裂果対策、天敵や耕種的防除などを用いたIPM(総合的病害虫管理)技術、鳥獣害対策や農作業安全等についての情報提供を行った。
- 出席者からは、甘平の裂果対策や摘果などについて質問があり、指導班からは、小玉果や扁平果等を7月の荒摘果で摘果すること、マルチや灌水などによる土壌水分管理を十分に行うこと、夏肥施肥による肥培管理をしっかり行うことを指導した。



出席者への技術指導

## 今治支局産地戦略推進室

### ■ビブナム・ティナス等花木栽培塾を開講

- 産地戦略推進室は、局予算事業の一環として、新規生産者等の早期の栽培技術習得を図るため、講座形式の栽培塾を開講。第1回の講座を9月19日(陸地部生産者対象)及び20日(島しょ部生産者対象)に開催し、両日合わせて生産者31名の参加があった。

- 講座では、室内研修において普及指導員が花木栽培のメリットや今後の管理、収穫と枝の調整作業について、切り枝を用いて説明を行うとともに、現地圃場に移動して収穫の実演を行った。
- 参加した生産者からは、重要な作業である収穫・調整作業のことが理解でき、今後に活かしたい等の意見が寄せられた。
- 栽培塾は全4回の構成としており、先進地視察研修や剪定方法について講座を行う。



現地研修（収穫実演）

## 中予地方局地域農業育成室

### ■土着天敵の供給体制整備に向けて

- 地域農業育成室は8月30日、農業大学校と連携し、同大学校の既存ハウスの中に、天敵温存植物（クレオメ）を定植し、土着天敵（タバコカスミカメ）の飼育実証を開始。
- この取組みは、産地内のなす圃場にいつでも土着天敵を供給できる体制づくりをねらったもので、土着天敵の有効利用により、薬剤抵抗性の回避や農薬の使用削減が見込まれる。
- 増殖した土着天敵は、管内の半促成なすを栽培する生産者のハウス（3戸、15a）に放飼するとともに、栽培講習会において成果を説明し、技術の普及を進めることとしている。



ハウス内にクレオメを定植（農業大学校）

### ■高浜復旧モデル地区で現地検討会を開催

- 地域農業育成室は9月18日、高浜復旧モデル地区で、JAえひめ中央及び松山市、中予局農村整備課等と、現地検討会（第3回同地区ワーキングチーム会）を開催。
- 検討会では、果樹研究センターからかん水方法に関する情報提供を受け、池からの落差により直接点滴かん水できることや、施設栽培に適した園地条件等を確認。
- また、モデル地区で営農予定の生産者5名に、工事スケジュールをはじめ、点滴かん水のメリットや苗木の確保、土づくり等について説明、園地別に栽培品種や植栽方法等の要望を聞き取りし対応を協議。
- モデル地区では、来年春には一部園地で植栽できる予定となっていることから、11月初旬の次回ワーキングチーム会では、具体的な植栽方法等について検討することとしており、今後も関係者や生産者との協議を重ね、スムーズな営農再開を支援する。



現地で今後の営農方法を検討

## 伊予農業指導班

### ■作柄良好！栗産地 中山 大いに盛り上がる

- 伊予農業指導班が「中山栗産地力向上促進事業」で設置している、モデル園地（低樹高カッ



トバック剪定、適期防除、省力施肥)の収量・品質調査では、早生～中生品種において、昨年度に比べ病虫害果の割合が少ない結果となっており、また、地区全体では昨年に比べ着穂数も多いことから、昨年以上の出荷量となる見込み。

○また、9月23日に開催された「なかやま栗まつり」には約13,000人の来場者があり、栗の直売や栗を使った新しいスイーツのお披露目などで大いに盛り上がる中、指導班では、来場者に栗の収量向上啓発パンフレットを配布し、産地の取組みをPRした。

○今後、指導班ではモデル園の成果を取りまとめ、栗農家に農薬散布や低樹高剪定のメリットを情報提供し、中山栗産生産拡大・品質向上を支援するとともに新規栽培者の確保に努める。



モデル園の品質調査



栗まつりで産地の取組みをPR

### ■革新的技術導入事業のハウス整備進む

○伊予農業指導班は農産園芸課と連携し、「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用して導入する、トマト養液栽培の培地に使用するピートモス・パーライト・ヤシガラ等の配合割合の検討や栽培技術について園主や民間メーカー、農林水産研究所研究員等との意見交換を行いながら、栽培開始に向け準備を進めている。

○現在、トマトハウス及び養液栽培システムの整備は順調に進んでおり、9月末に定植し11月中下旬から来年7月末までの収穫で、10a当たり20tの収穫量を目指す。

○また、当該事業を活用したハウス整備及び技術実証に際しては、若手普及指導員はもとより、JA新規就農研修センター研修生の技術習得の場として活用することとしている。



整備中のハウス施設



栽培技術について園主と意見交換

## 久万高原農業指導班

### ■漬物の生産拡大を目指し加工技術講習会を開催

○久万高原農業指導班は9月6日、道の駅みかわの協力を得て漬物の加工技術講習会を開催し、生産者14名が参加。

- これは、局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」の一環として、道の駅等での売上が増加している漬物の生産を拡大する目的で実施したもの。
- 当日は、普及指導員OBの渡部淑己氏を講師に、ワークショップ形式で地域産物を利用した加工品の掘起しを行うとともに、シイタケの甘酢漬など8種類の漬物の試食や、ダイコンやニンジン等を利用した「甘酢漬」の試作を行った。
- 参加者は、地元産ワサビを利用した新たな商品開発や他生産者との出荷時期の調整などについて、活発な意見が出されるなど意欲的で、指導班では、引き続き道の駅と協力し漬物の生産活動を支援する。



試作した甘酢漬

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■「さくらひめ」の定植始まる

- 産地戦略推進室及び地域農業育成室は9月10日、東温市の「さくらひめ」生産農家と連携し、施肥の省力化技術を検討するため基肥に緩効性肥料を用いた実証圃を設置した。
- 中予地方局管内における今年度の「さくらひめ」生産農家は、切花・鉢物合わせて14戸、栽培面積は15.6a増加して約41.6aとなる見込み。
- 定植は、鉢物が8月21日、切花は9月10日から始まっており、今年は平年より気温が高く推移していることから、寒冷紗や散水による地温上昇の抑制を徹底し、定植初期の苗の活着を促すこととしている。
- 両室では、今後も技術指導を通して高品質生産を目指すとともに、自家育苗に取り組む生産者には、播種作業の指導を実施する。

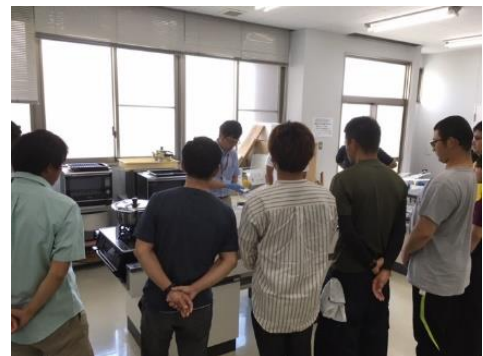


定植後にかん水する生産者

## 南予地方局地域農業育成室

### ■新規就農者が制度資金と柑橘の魅力発信について学ぶ！

- 地域農業育成室は9月12日、就農3年目までの新規就農者の資質向上を図るため、第1回ニューファーマー講座を開講し、新規就農者12名が参加した。
- 講義では、普及指導員が講師となり、「農業制度資金」の講義のほか、柑橘の魅力発信を習得させるため、河内晩柑を題材に機能性や加工品による高付加価値について加工実習を交えながら講義を実施。
- 参加者からは、「制度資金を有効に活用し、経営発展に繋げていきたい。」「自分たちの作る河内晩柑がどのように加工、販売されているのか学ぶことができた。」との感想があった。
- 地域農業育成室では、10月と1月に同講座を実施することとしており、新規就農者の技術取得や早期経営安定を支援する。



加工実習に取り組む参加者



## ■JAえひめ南でサトイモの出荷が始まる

- 地域農業育成室はさといもの生産拡大に取り組んでおり、今年度の栽培農家は39戸（昨年度28戸）、栽培面積は5.9ha（昨年度3.4ha）となった。
- 9月2日より収穫が始まり、試験掘調査より10a当たり2.7t（昨年度1t）の収穫が予想されることから、昨年の出荷量30tを大きく上回る90tの収穫を見込んでいる。
- 農協は今年度、掘取機を2台整備し省力化を図ることとしており、同室は関係機関と連携しながら機械利用組合の設立等を働きかけ、栽培技術の向上とともに周年機械化省力生産体系によるサトイモの産地力向上を支援する。



## 愛南農業指導班

### ■サル被害軽減対策に取り組む

- 愛南農業指導班は9月13日、鳥獣害防止新技術等実証展示事業を活用し、サルによる農作物の被害の発生や通学時の児童の安全も危惧されている愛南町北裡地区において、サル捕獲檻1基を設置。
- この捕獲檻は、ICT技術を活用した遠隔監視システムで、ネットワークを介して侵入状況をカメラで確認し捕獲する仕組みとなっており、今後は、サルの出没状況を確認しながら、約1か月の餌付け期間をおいて、10月から地元猟友会の協力を得て捕獲に入る予定。
- 愛南町では、捕獲機の効果が認められれば、町単独での導入も視野に入れている。
- 指導班では、町や猟友会と連携し餌付けや捕獲を支援し、サルによる農作物被害の軽減を図る。



捕獲檻を設置する関係者

## 八幡浜支局地域農業育成

### ■川上地区青年農業者と愛媛大学生の交流活動がスタート

- 地域農業育成室は9月21日、川上地区青年農業者と愛媛大学社会共創学部との交流活動を支援として、青年農業者の圃場で収穫支援の事前研修を実施。
- 事前研修には、青年農業者12名、大学生11名が参加して極早生みかんを収穫。大学生の大半は収穫が初めての経験で、青年農業者から作業のコツを熱心に教わっていた。
- また、みかんアルバイトなどが利用しやすい環境にするため、アシストスーツの着用体験や同地区に設置している屋外トイレ、休憩所の環境改善策などの意見交換を行った。
- なお、愛媛大学社会共創学部学生では、11月30日・12月7日の2日間、川上地区で温州みかんの収穫支援を計画している。



環境改善に関する意見交換の様子



## 西予農業指導班

### ■青ゆず等普及ビジョン推進農産物の活用促進に向けて

- 西予農業指導班は9月4日、産地戦略推進室と連携して西予市城川町で県内シェフとの意見交換会を実施した。
- 県内の西洋料理の第一人者である(社)全日本司厨士協会愛媛県本部より4人のシェフが来町し、栗、青ゆず、ニラ、トマトなどの園地等の視察を行ったあと、活用の可能性について意見交換を行った。
- シェフからは、「西予市にもいろんな食材があることを知り、とても勉強になった。青ゆずは、青果で使える期間が短いので(2週間程度)、果皮の冷凍や果汁に加工処理したものがあれば、活用の幅が広がる。」といったアドバイスを受けた。



選果場の視察



青ゆず園地の視察



シェフとの意見交換

- シェフとの意見交換は初の試みであったが、実際に食材を利用する立場からの貴重な意見が聞け、有意義な会となり商談へつながるきっかけにもなったことから、今後も県内シェフと意見交換し、関係機関と連携しながら活用促進を図る。

### ■いちご「紅い雫」の新規栽培者3戸が栽培を開始

- 西予農業指導班管内では、新たに3戸16aで「紅い雫」の栽培が開始された。
- 新規栽培者は、昨年の豪雨被害からの経営再建として品目の転換・多角化を検討する中、指導班が推進している「紅い雫」に着目。ハウス再建や苗代助成など各種県事業等を活用して新たな出発となった。
- 栽培者は多様な販売形態を計画しており、安定した出荷量を確保する必要があることから、農協や地域のベテラン農家と連携して栽培技術の早期習得について、重点的に指導を行うこととしている。



復旧ハウスに定植された「紅い雫」

## 八幡浜支局産地戦略室

### ■フィンガーライム産地化に向けて

- 産地戦略推進室は9月18日、フィンガーライム産地化に向け、新規栽培候補者を対象に第2回目の説明会を、個別相談会形式で開催した。
- 前回示した導入試算や補助事業活用等について、参加者からの質問に対して局・市の事業担当者らが詳しく説明したほか、ハウス用地、労働力など導入の具体的な予定について意見交換した。
- 当室は、生産者の組織づくりや新規導入を支援し、引き続き関係者と連携して「“国産” “フレッシュ” フィンガーライム=愛媛」のキャッチフレーズで産地化を目指す。

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543